

Symposium

🎫 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-1]

海外留学を活かした小児心臓血管外科医のキャリア形成

○小谷 恭弘 (岡山大学 心臓血管外科)

[III-SY7-2]

国内留学を活かした小児心臓血管外科医のキャリア形成

○白石 修一, 渡邊 マヤ, 杉本 愛, 星名 雄太 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野)

[III-SY7-3]

地方における小児循環器医のキャリア形成・経験と課題と未来に向けて

○檜垣 高史 (愛媛大学大学院医学系研究科 小児・思春期療育学講座)

[III-SY7-4]

都市部における小児循環器科医のキャリア形成・経験の課題とその解決策

○前田 潤 (東京都立小児総合医療センター循環器科)

[III-SY7-5]

海外留学を活かした小児循環器科医のキャリア形成の経験

○松井 彦郎 (榊原記念病院 小児周産期診療部)

Symposium

📅 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-1] 海外留学を活かした小児心臓血管外科医のキャリア形成

○小谷 恭弘 (岡山大学 心臓血管外科)

Keywords：海外留学、小児心臓血管外科医、キャリア形成

心臓血管外科の中でも小児心臓血管外科領域の修練は特に時間がかかると言われている。日本における問題点は、各施設における症例数が少ないことや、正式なプログラムがないことである（現在は、小児循環器学会を主導とした小児心臓血管外科医プログラムが走り出している）。そのような状況の中で、最短で一人前の小児心臓血管外科医を目指す、ということになるとやはり、海外留学を誰しも考えるのではないだろうか。海外留学のメリットは、豊富な症例の経験、世界各国に友人ができること、日本の良さを再認識する、など多く挙げられる。一方、語学・医師免許の習得や経済的な面での負担などのデメリットもある。これらの利点欠点は、個々でその基準は違うと思われるので何がベストかは言えないが、演者は約5年間の海外留学で良い経験をしたと思っており、発表では、アメリカでの研究生活、カナダでの臨床研修について、その後のキャリア形成にどのように影響したか、述べたいと思う。

Symposium

🎫 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-2] 国内留学を活かした小児心臓血管外科医のキャリア形成

○白石 修一, 渡邊 マヤ, 杉本 愛, 星名 雄太 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野)

Keywords：小児心臓外科、国内留学、キャリアパス

小児心臓外科医のキャリア形成に正解はありませんが、それぞれが思い描くゴールを目指し各々のパスを設計してゆく必要があります。国内留学は海外留学に比べてハードルは低く情報も得やすいですが、どのタイミングでどこの施設を選択するかは悩む人も多いと思います。筆者は地方国立大学病院の自施設を中心に、国内2か所のハイボリュームセンターへの国内留学と海外1施設への短期留学を行いました。筆者自身の経験も踏まえて、国内留学を活かした小児心臓外科医のキャリア形成について考えます。

Symposium

🎫 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-3] 地方における小児循環器医のキャリア形成・経験と課題と未来に向けて

○ 檜垣 高史 (愛媛大学大学院医学系研究科 小児・思春期療育学講座)

小児循環器医療は、高度な専門性と集中治療が求められる領域である。その一方で、小児循環器医・小児心臓外科医は全国的に不足しており、また地方大学では幅広い専門分野のある小児科全体の医師数が限られている中で、ディープサブスペシャリティを担うスタッフの十分な配置は容易ではない。その結果、若手医師育成の基盤（症例数・指導体制・教育プログラム）は十分とは言えず、質と量の両面で安定した育成が求められている。また、専門医育成の継続には、労働基準法に基づく勤務環境整備やタスクシフトなどの実効ある対策も不可欠となる。

このような現状に対して、症例検討会、術前・術後カンファレンス、ハンズオンセミナー、リサーチカンファレンスなど、多様な教育プログラム導入が必要である。課題解決の鍵としては、①大学病院と地域基幹病院の連携強化、②症例数を確保する広域連携ネットワーク構築、③オンラインも用いた研修・遠隔カンファレンスの積極導入、④地域特性に応じた施設認定制度の見直しによる診療アクティビティの維持、⑤医学生へのアーリーエクスポージャー機会の提供、⑥若手医師・指導医向けキャリア形成プログラムの整備、などが有効な方策としてあげられる。

地方における小児循環器医のキャリア形成のためには、「拠点化による専門性維持」「地域基幹病院の育成機能強化」の両立を図ることが求められる。

発表の機会をいただいたことを機に、愛媛県におけるキャリア形成を検討する好機と位置づけ、地方における小児循環器医育成の課題と未来への実践的な解決策を、深化させる契機としたいと考えます。

Symposium

🎫 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-4] 都市部における小児循環器科医のキャリア形成・経験の課題とその解決策

○前田 潤（東京都立小児総合医療センター循環器科）

Keywords：小児循環器医、キャリア形成、都市部

東京都内の小児循環器専門医数は、2025年4月現在102名で、そのうち76名（75%）が、専門医を養成する16の研修施設（基幹施設11、連携施設5）に在籍している。人口の多い東京都では小児循環器患者数も多いが、16研修施設中13施設が23区内にあり、各施設が競合する診療環境にある。また、様々な事情により、都内で小児循環器の研修、キャリア形成を希望する医師も少なくない。このため、専門医取得に必要な数の臨床経験を積むこと、心臓カテーテルや心エコー、運動負荷試験などの手技を習得することが不十分な場合がある。さらには施設によっては、不整脈、胎児診断、心臓カテーテル治療などのより専門的な分野や、学会発表、論文作成に対する指導が困難な状況があり得る。小児循環器専門医の取得ならびに取得後の小児循環器診療の質の維持のためには、施設間の連携による研修機会の増加、やオンラインカンファレンスの定期開催等を通じて、各研修施設における研修内容の差異を最小化することが求められる。都市部において、ワークライフバランスを維持しながら、小児循環器医の良質なキャリア形成をいかに進めるべきか、自らの反省も交えつつ述べてみたい。

Symposium

📅 Sat. Jul 12, 2025 10:10 AM - 11:40 AM JST | Sat. Jul 12, 2025 1:10 AM - 2:40 AM UTC 🏢 Room2 (Fine Arts Center 1F Middle Auditorium)

Symposium7(III-SY7)

座長：松久 弘典（兵庫県立こども病院 心臓血管外科）

座長：松井 彦郎（榊原記念病院 小児周産期診療部・小児循環器内科）

[III-SY7-5] 海外留学を活かした小児循環器科医のキャリア形成の経験

○松井 彦郎 (榊原記念病院 小児周産期診療部)

Keywords：海外留学、キャリア形成、資格取得

「きちんとした小児循環器医になりたい」。その目標の中、小児循環器領域において長年の間人材育成・キャリア形成のあり方が系統的に示されることはなかった。「頑張る」という言葉の傘の下、少なくない小児循環器医・心臓外科医が小児循環器の道から離れていく姿をこれまで多くの人が見つめてきた。

「なぜ多くの医師が海外留学をするのか?」。自身のキャリアパスが見えない中、そこに「答えがあるかも」との期待を胸に膨らませて英国留学の路をチャレンジする事となった。2006年から2010年に英国Imperial College LondonにFetal Cardiologyで留学し、臨床・臨床研究・基礎研究に従事した。豊富な臨床経験・臨床研究・英国臨床資格・英国小児循環器専門医・基礎研究・論文作成・Doctor of Philosophyの経験を得ることができた。

英国の医療をリードする指導者達は、押し並べて「一流とはどうあるべきか」を具現化していた。第一に人格に優れていることが基本として、人としての対応が優れていた。医療者としての実績・研究・指導も模範的であり、本質をついていた。眼前の本物と比較すると自己は粉々に粉碎され、焦燥感・挫折感・敗北感が溢れ、自らのいたらなさを痛感できた。「留学は海外を見に行くのではないよ、日本と自分を見に行くのだよ」の先輩の言葉が突き刺さった。

海外留学は自らを成長させるきっかけとなる「一つの機会」であった。自身の位置を謙虚に自覚し、人格を育むことがキャリア形成の核となると感じた。医師としての人生を自己満足で終わらせないために、困難から逃ずに自分と向き合うために、「人」として真っ当に行動する事が鍵であるかもしれない。

小児循環器におけるキャリア形成とは、人格形成を基本とした自己実現を目指した過程である。その中で海外留学が一つの役割を果たすことができれば良いと考える。